

平成30年9月3日

各小中学校保護者の皆様へ

紀宝町教育委員会

平成30年度 全国学力・学習状況調査の結果について

平素は本町学校教育に対しましてご理解とご協力を賜りありがとうございます。

平成30年4月17日（火）に、小学校第6学年児童（5校計82人）、中学校第3学年生徒（2校計89人）を対象に実施された、「全国学力・学習状況調査」の結果概要についてお知らせします。

この「全国学力・学習状況調査」の目的は、

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

となっております。

また、この調査の実施要領によりますと、調査結果の公表に関しては、この調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分に配慮することが重要であるとあります。

そこで、紀宝町教育委員会といたしましても、この調査が児童・生徒の学力の全てを表すものではないことにも留意しながら、調査の目的である教育施策の改善や各小中学校における指導の充実・授業改善につなげていくために、今後の紀宝町の学校教育の一層の充実を図っていく所存です。

さらに、小学校では平成32年度（中学校では平成33年度）から全面実施される新学習指導要領に示されているように、今後は「主体的・対話的で深い学び」を通じて、一人ひとりの子どもに確かな学力を身につけていく必要があります。そのためにも、町内の各小中学校に対して、保護者の皆様とも連携を深めながら、児童・生徒の生きる力を育むとともに、学力の向上に向けた取組を着実にすすめていくよう指導・支援してまいりますので、保護者の皆様におかれましても、ぜひご理解とご協力いただきますようお願いいたします。

平成30年度全国学力・学習状況調査における紀宝町の結果概要

紀宝町教育委員会

1. 各教科における平均正答率、及び平均正答数等

【小学校】 ※A問題(主として「知識」に関する問題) B問題(主として「活用」に関する問題)

	国語A	国語B	算数A	算数B	理 科
紀宝町	65% (7.8/12問)	50% (4.0/8問)	60% (8.4問/14問)	45% (4.5/10問)	58% (9.2/16問)
三重県	70% (8.4/12問)	54% (4.3/8問)	63% (8.8/14問)	50% (5.0/11問)	59% (9.4/16問)
全 国	70.7% (8.5/12問)	54.7% (4.4/8問)	63.5% (8.9/14問)	51.5% (5.1/10問)	60.3% (9.6/16問)
平均無解答率 (紀宝町)	1.3%	2.4%	0.7%	7.4%	0.5%
平均無解答率 (全国)	3.5%	3.8%	2.5%	7.9%	1.2%

- ・町平均正答率は、全国平均との比較では、算数A、理科で全国平均をやや下回り、国語A、国語B、算数Bでは全国平均を下回っています(各教科平均: -4.5ポイント)。また、国語A、国語B、算数Bでは全国平均との差が前年度より少し広がってしまう結果となりました(-4~-7ポイント)。
- ・ただし、無解答率は全ての教科で全国平均を下回り、さらに前年度と比較しても全ての教科で無解答率が下回って(改善されて)います。つまり、全国と比較しても前年度と比較しても、児童たちはあきらめずに最後まで粘り強くテストに取り組んだことが伺われます。

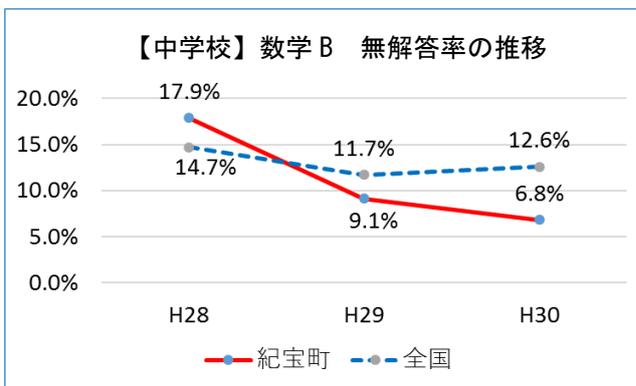
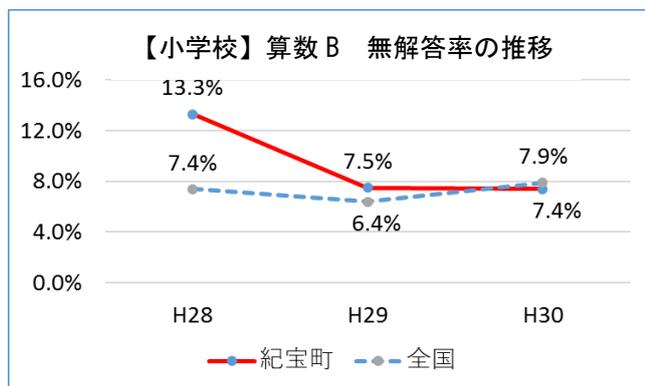
【中学校】 ※A問題(主として「知識」に関する問題) B問題(主として「活用」に関する問題)

	国語A	国語B	数学A	数学B	理 科
紀宝町	75% (24.0/32問)	59% (5.3/9問)	71% (25.4/36問)	47% (6.5/14問)	66% (17.9/27問)
三重県	75% (24.1/32問)	60% (5.4/9問)	67% (24.0/36問)	46% (6.4/14問)	66% (17.8/27問)
全 国	76.1% (24.3/32問)	61.2% (5.5/9問)	66.1% (23.8/36問)	46.9% (6.6/14問)	66.1% (17.9/27問)
平均無解答率 (紀宝町)	1.4%	0.6%	0.9%	6.8%	2.0%
平均無解答率 (全国)	3.1%	3.0%	3.3%	12.6%	5.0%

- ・町平均正答率は、全国平均との比較では、国語A、国語Bで全国平均をわずかに下回った(-1~-2ポイント)ものの、数学B、理科は全国平均と並び、さらに、数学Aは全国平均を5ポイントも上回る結果となりました。
- ・また、小学校6年時の調査と比べて、全教科で全国平均との差を大きく縮めることができました(+1.7~+8.2ポイントの改善)

- ・さらに、無解答率も、全ての教科で全国平均と比較しても、前年度と比較しても、かなり低くなっており、小学6年生と同様、中学3年生たちも最後まであきらめずに粘り強くテストに取り組む姿勢が見てとれました。

◎ 無解答率について



上のグラフは、算数・数学B問題における過去3年間の無解答率の推移を表しています。以前は、とくに長い文章を読まなければならない問題（例：国語B、算数・数学B）に出会ったら、問題も読まずに最初から解答をあきらめてしまう児童生徒も少なくありませんでした。

しかし、ここ数年、紀宝町では、どの学校でも児童・生徒たちに「たとえ、難しい問題に出会ったとしても、最後まであきらめずがんばろう。」という指導を徹底してきました。また、定期テストや普段の授業においても、簡単にあきらめてしまわず粘り強く考えようという指導にもていねいに取り組んできました。そのような各学校での継続的な指導の結果、これらのグラフからも分かるように、全国平均よりも無解答率が減少し、粘り強い姿勢で学習に取り組む児童生徒が増加しており、紀宝町の児童・生徒たちの成長につながってきていると言えます。

◎ 3年間の経年変化について(標準化得点による3年間の比較)

全国学力・学習状況調査の各教科の問題は、毎年問題数や難易度等が異なることから、各年度の平均正答数や平均正答率だけで単純な比較はできません。

そこで、文部科学省が作成した「標準化得点換算ツール」を使用して、その年の全国平均正答率を100とした場合の紀宝町における得点状況を「標準化得点」として算出しました。

そうすることで、全国的な状況との関係について年度間の変化を経年で比較することができます。

標準化 得点	小学校			中学校		
	30年度	29年度	28年度	30年度	29年度	28年度
国語 A	97	99	96	99	97	97
国語 B	98	99	98	99	98	97
算数・数学 A	98	98	100	102	99	97
算数・数学 B	97	97	98	99	99	97
理科	98			100		
全国	100	100	100	100	100	100

この標準化得点で、ここ3年間の平均正答率を比較してみると、小学校では全国平均正答率をわずかに下回る状況で推移しており、大きな増減もありません。また、中学校では毎年少しずつ改善されており、平成30年度はどの教科もほぼ全国平均正答率に並ぶことができました。とくに数学Aにおいては初めて全国平均正答率を上回りました。

2. 各教科における特徴

【小学校】

(○…紀宝町における強み、▲…紀宝町における弱み)

	A問題	B問題
国語	<p>○オムレツの作り方の中から、目的に応じて必要な情報を読み取るために、どこに着目して読めばよいかを捉えること（領域：読むこと）については、正答率が80%で、全国平均を4ポイント上回っている。</p> <p>▲文の中における主語と述語との関係などに注意して、文を正しく書くこと（例：「反省点は、用具の手入れをあまりしませんでした×→しなかったことです○）については、正答率が20%に留まり、全国平均より10ポイント下回っている。</p> <p>▲A問題では、「書くこと」の領域に課題がある。</p>	<p>○目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと（記述問題）については、全国平均を5ポイント上回っている。</p> <p>▲話合いの参加者として、質問の意図を捉えること（領域：話すこと・聞くこと）については、選択式にもかかわらず正答率が70%を割り、全国平均より18ポイント下回っている。</p> <p>▲B問題では、「話すこと・聞くこと」に課題が見られる。</p>
算数	<p>○180°の角の大きさを理解していることについては、ほぼ100%の児童が理解しており、全国平均より4ポイント以上上回っている。</p> <p>▲円の直径の長さや円周の長さの関係（直径が2倍になれば、円周は何倍になるか）については、正答率が50%未満であり、全国平均より10ポイント下回っている。</p> <p>▲A問題では、それ以外にも、空間の中での位置関係や円周率の意味など、図形の領域にいくつかの課題が見られる。</p>	<p>○図形の構成要素や性質（正六角形の内角が120°、正三角形の内角が60°）を基に、集まった角の大きさの和が360°になっている理由を記述する問題については、記述にも関わらず、全国平均を2ポイント上回ることができた。</p> <p>▲4色の折り紙の輪を順番に並べて作った輪かざりの色の規則性を解釈し、それを基に条件に合う色（30番目）を判断する問題については、全国平均を18ポイント下回った。</p> <p>○B問題では、A問題とは逆に図形の領域で全国平均を上回っている。</p>
理科	<p>○回路を流れる電流の向きと大きさについて、4つの予想の中から、実際に検流計で測定した実験結果から電流の流れ方について、より妥当な考えに見直す問題については、正答率が70%に達し、全国平均より10ポイント以上上回った。</p> <p>▲鳥の翼と人の腕のつくりについてまとめた結果について考察する際に、そのまとめに対応した視点（骨の数や関節）で分析・選択できる問題については、正答率が63%に留まり、全国平均を12ポイント下回った。</p> <p>○エネルギーの領域については、全国平均を5ポイント以上上回った。</p>	

【中学校】

	A問題	B問題
国語	<p>○「文脈に即して漢字を正しく読む（池の水が凍る・技を磨く）」の2問は正答率 100%となり、紀宝町の中学3年生全員が正解であった。</p> <p>▲「語句の意味を理解し、文脈の中で適切な語句を選択する（せきを切ったように話し始めた、意見の折り合いをつける、ひとえに母のおかげです）」の3問については、どれも正答率が 50%以下で、全国平均からも 10 ポイント以上下回っている。</p> <p>○領域に関しては、「読むこと」が全国平均を 3 ポイント上回っている。</p>	<p>○グラフから分かることについて適切なものを選択する問題については、長文の文章とグラフとの関係を考えながら内容を捉える必要があるにも拘らず、全国平均正答率を上回ることができた。</p> <p>▲ロボットに期待することを述べて発表をまとめる際の話の進め方として適切なものを選択する問題については、全体と部分との関係に注意して相手の反応を踏まえながら話すことがあまりできていないようで、全国平均正答率に比べても 11 ポイント下回っている。</p>
数学	<p>○文章で表された数量の大小関係を不等式に表す問題 ($3a+4b \geq 15$) では、全国平均正答率を 17 ポイント上回った。</p> <p>▲等式の性質を用いて式を変形する問題 ($S=ah/2$ を a について解く) では、平均正答率が 37%と低く、全国平均正答率を 11 ポイント下回ったことから、課題がなかなか改善されていない現状が見てとれる。</p> <p>○「数と式」「図形」「関数」「資料の活用」の4領域全てで全国平均正答率を上回っており、とくに「関数」では7ポイント上回っている。</p>	<p>○グラフから、列車のすれ違いが起こる地点の道のりを求める問題では、グラフから必要な情報を読み取り、事象を数学的に解釈する必要があるのだが、平均正答率が 80%を上回っており、全国平均正答率も 4 ポイント上回ることができた。</p> <p>▲条件を変えて（平行四辺形を正方形に変える）説明する問題では、新たな事柄を見いだす必要があり、さらには記述問題と言うこともあり、平均正答率が 30%足らずとなった。さらに全国平均正答率よりも 10 ポイント下回っている。</p> <p>○B問題においても、4 領域全てで全国平均正答率とほぼ同じレベルに達している。</p>
理科	<p>○アサリが出す砂の質量は何に関係するのかを科学的に探究する学習場面において、1つの要因（明るさ）を変えると、他にも変わる可能性のある要因（水温等）を指摘する問題について、平均正答率が 70%を超え、全国平均より 9 ポイント上回った。</p> <p>▲無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用する問題については、平均正答率が 70%を超えたが、全国平均正答率は 14 ポイント下回った。</p> <p>○化学的領域と地学的領域については、全国平均正答率を上回ることができた。</p>	

3. 児童生徒質問紙の特徴的な傾向

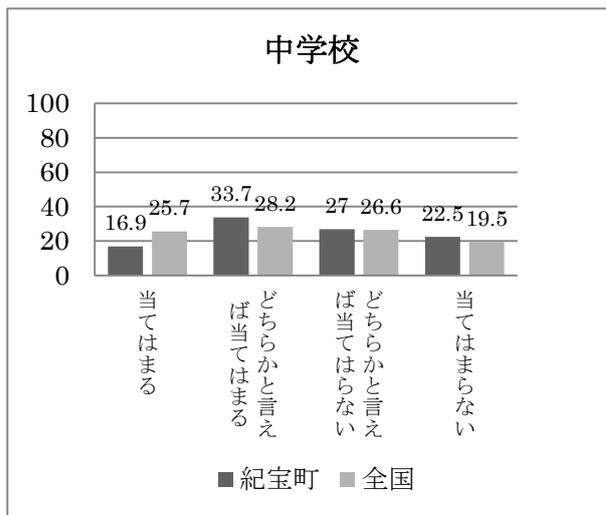
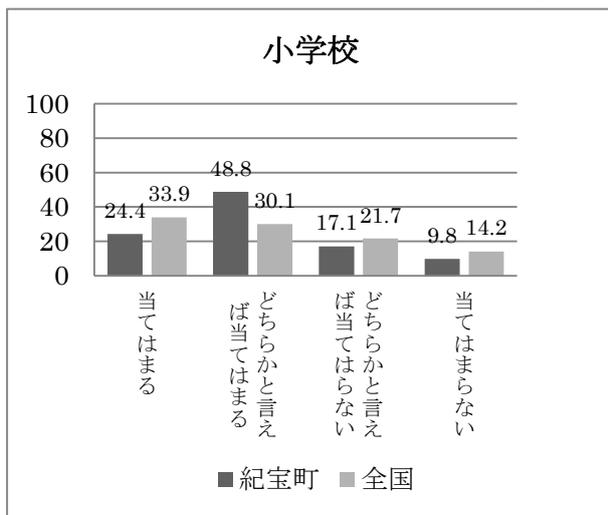
「児童生徒質問紙調査」とは、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査です。ここでは「児童生徒質問紙調査」のうち、特徴的な傾向を示している質問とその回答をいくつか取り上げ、それらについて分析（コメント）します。

※以下のコメントでは、基本的に『当てはまる』『どちらかと言えば当てはまる』と回答した児童生徒を、「肯定的な回答をした」児童生徒と表します。

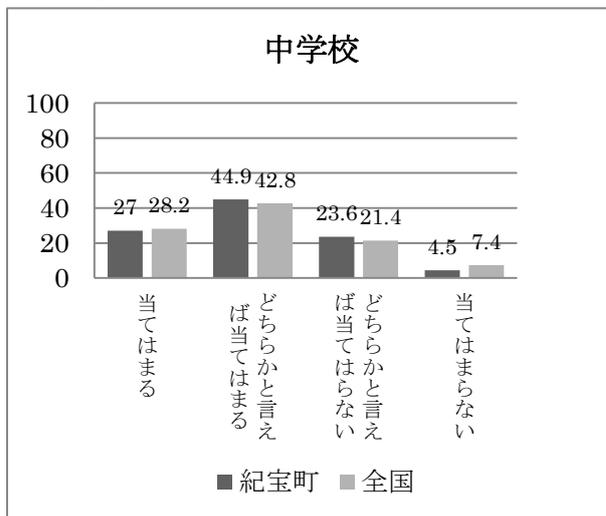
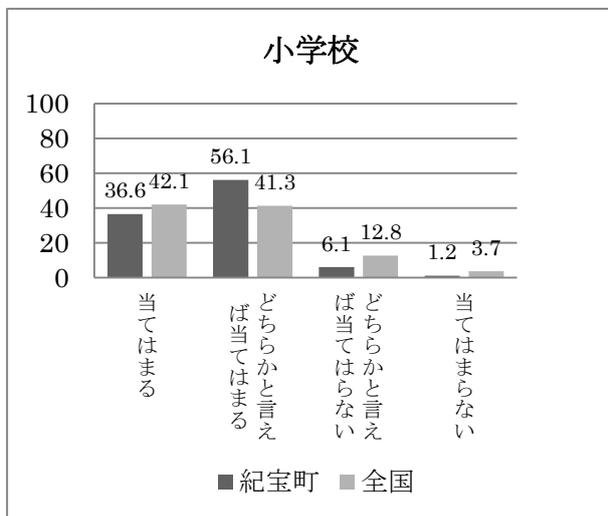
① 学びの充実に向けて

- ◎「算数・数学、理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では算数で全国より9ポイント高いが、理科は全国とほぼ同じである。また、中学校では数学・理科ともに全国より低い。
- ◎一方、「授業の内容はよく分かりますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では算数で全国より9ポイント高いが、理科は全国とほぼ同じである。しかし、中学校では数学は全国とほぼ並び、理科では4ポイント上回る。
- ◎「自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、自然豊かな紀宝町で育っていることもあり、全国を大きく上回る。

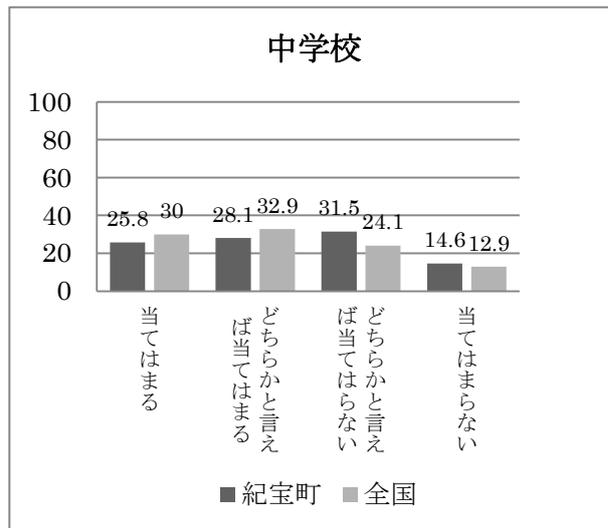
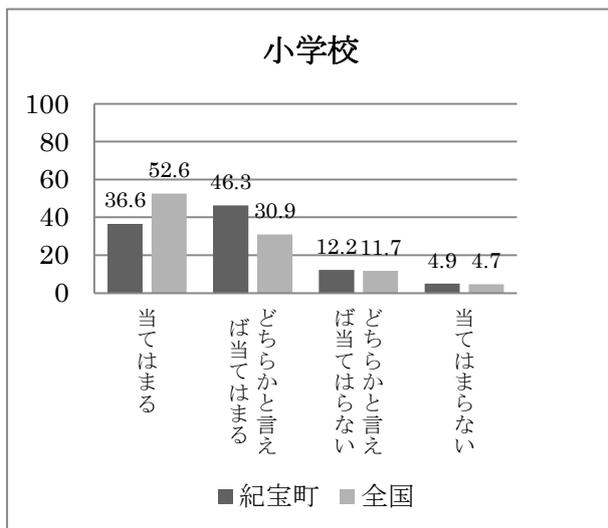
(1) 算数・数学の勉強は好きですか。



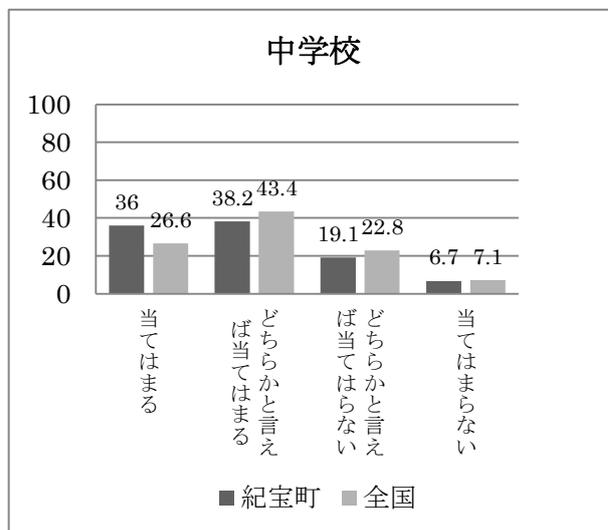
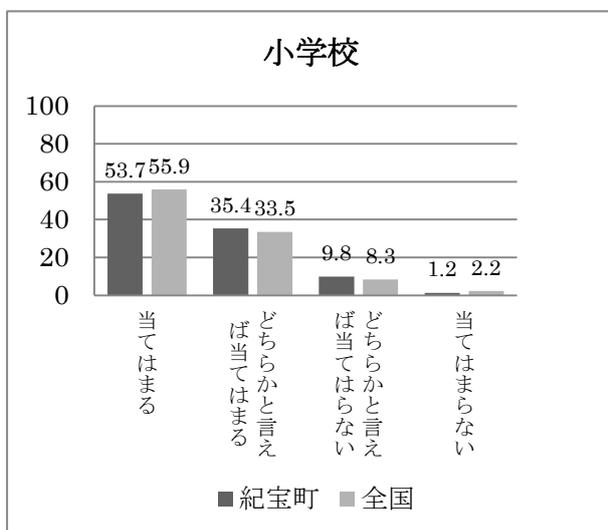
(2) 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか。



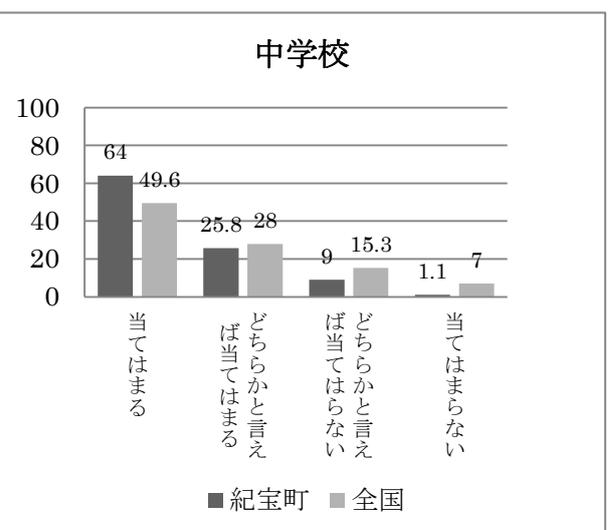
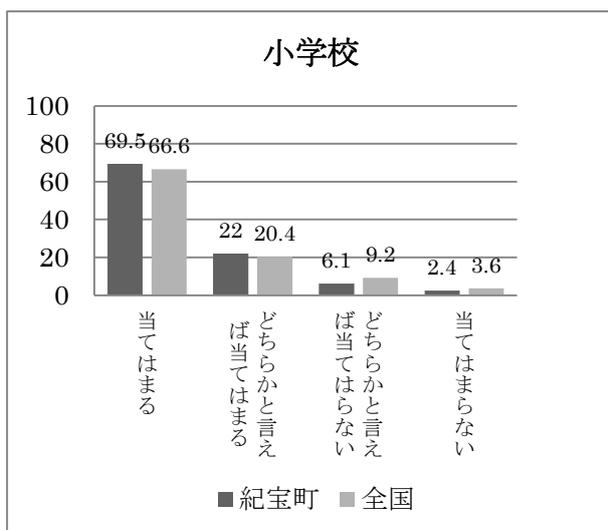
(3) 理科の勉強は好きですか。



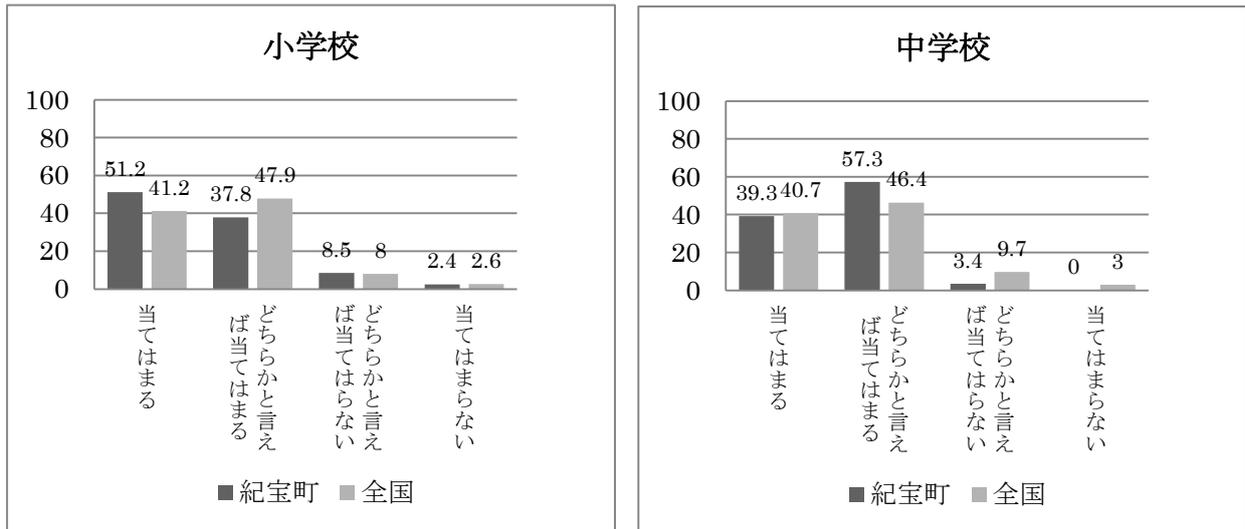
(4) 理科の授業の内容はよくわかりますか。



(5) 自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。



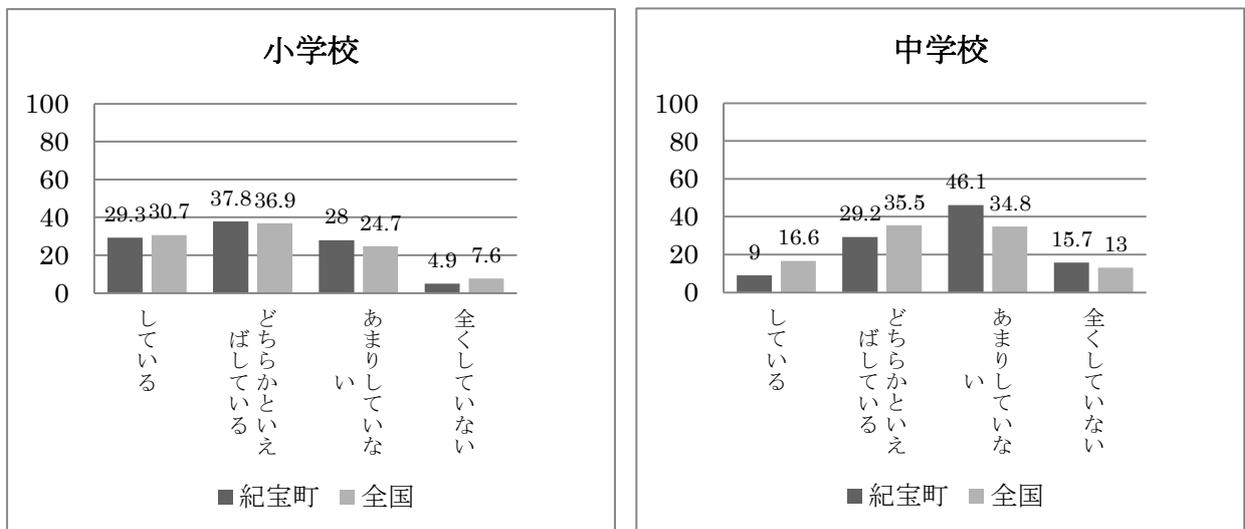
(6) 理科の授業では、理科室で観察や実験をどのくらい行いましたか。



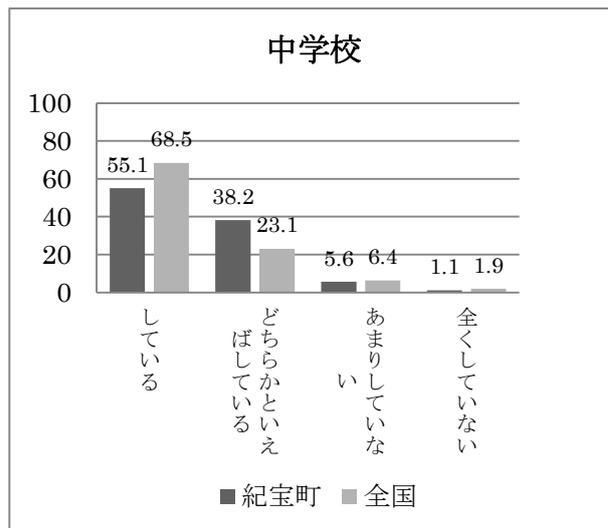
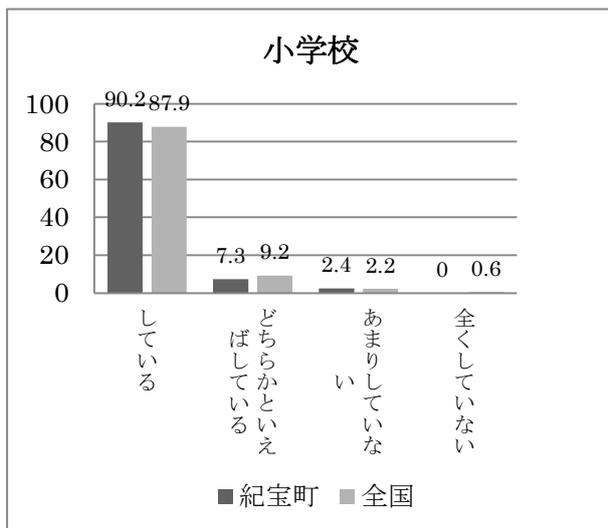
② 生活習慣（とくに家庭学習）について

- ◎ 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小学校では全国とほぼ同じだが、中学校では14ポイント下回り、さらに、「家庭での予習復習」については、中学校で20ポイント下回るなど、計画的な家庭学習や予習復習の習慣が十分に定着していないことが伺える。
- ◎ その家庭学習の状況を、学習時間をもとに分析してみると、「1時間以上」が小学校で93%と全国を少し上回っているが、中学校では73%と20ポイント下がってしまい、全国と比べても14ポイント下回る。すなわち、家庭学習については、方法の面からも、学習時間の面からも、これまでの課題がなかなか解消されていない。
- ◎ さらに、読書の時間についても、「全くしない」が、小学校で21%から中学校で36%と15ポイント高くなり、年齢が進むにつれて「読書離れ」がさらに進んでいる。

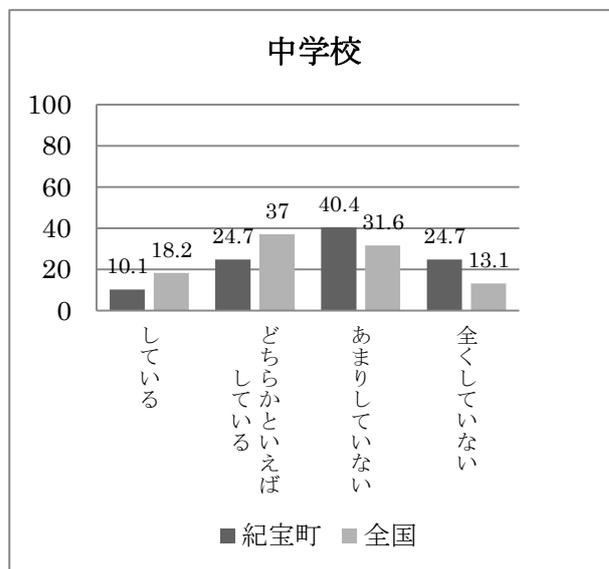
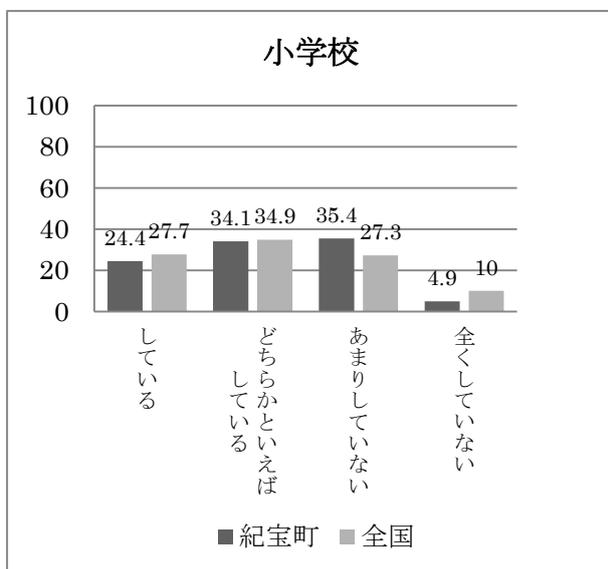
(1) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



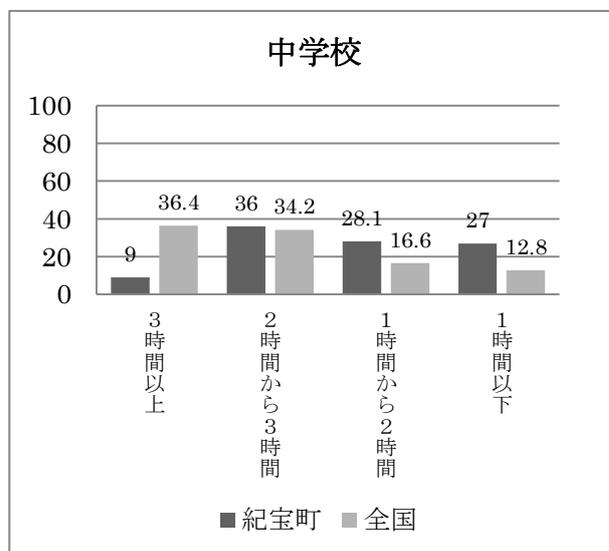
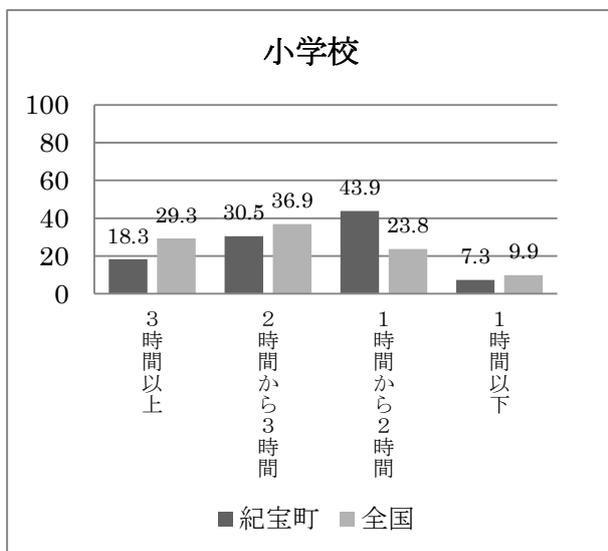
(2) 家で、学校の宿題をしていますか。



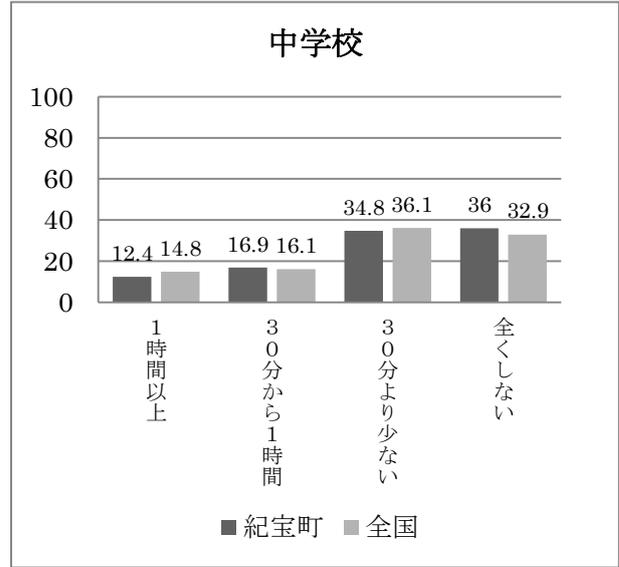
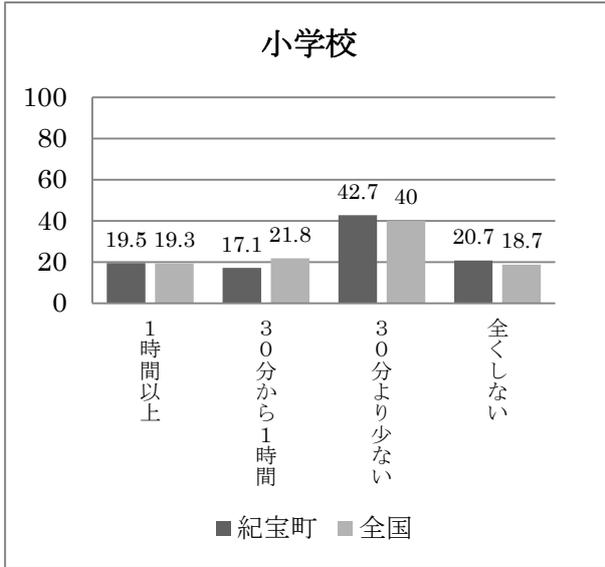
(3) 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか。



(4) 授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。



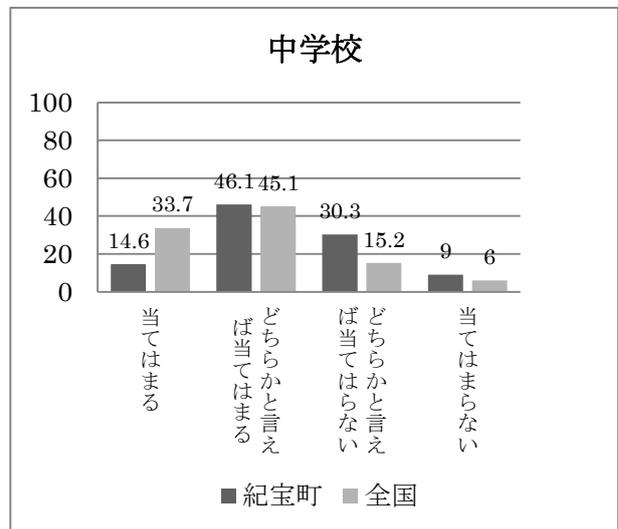
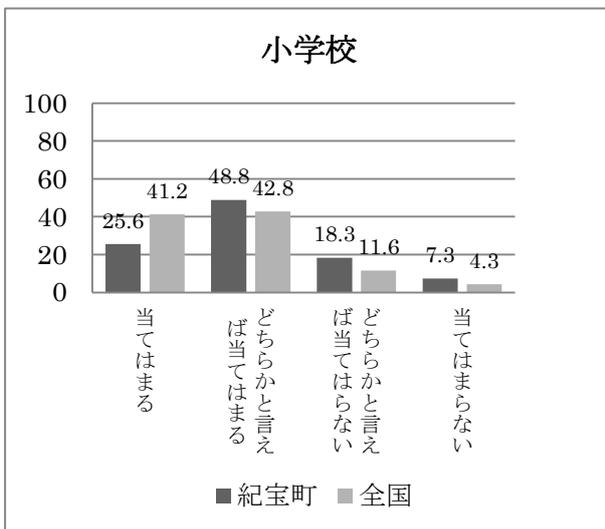
(5) 普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。



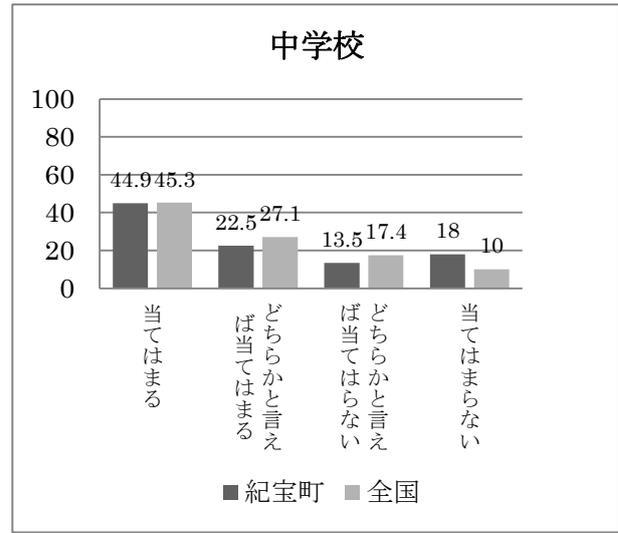
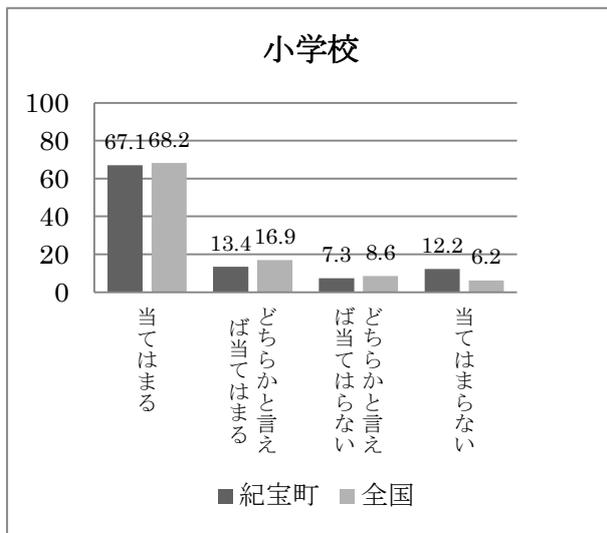
③ 自尊感情・規範意識について

- ◎ 「自分には、よいところがある」「将来の夢や希望を持っている」の2項目に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中ともに全国を下回り、とくに小学校から中学校にかけて大きく減少しており、子どもたちの自信のなさや自尊感情の低さが見られる。
- ◎ 一方で、「学校のきまり・規則を守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけない」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中ともに全国より高く、両方とも95%を上回っており、子どもたちの規範意識はたいへん高い。
- ◎ 「人の役に立つ人間になりたい」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小から中にかけて増加し、中学生では99%にまで至る。つまり、地域との関わりやふれあいを通して、地域のみなさんから高い評価をいただくことで子どもたちの自己有用感は向上している。このことは、次の④地域との関わりとも大きく関連しており、さらには、規範意識の高さとも相乗的な関係があると考えられる。

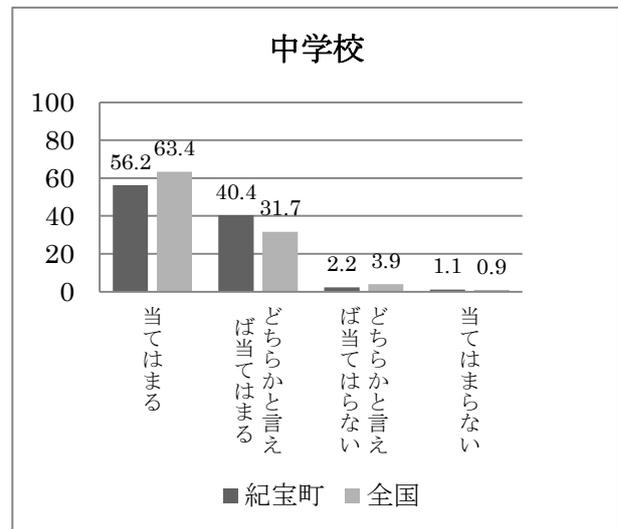
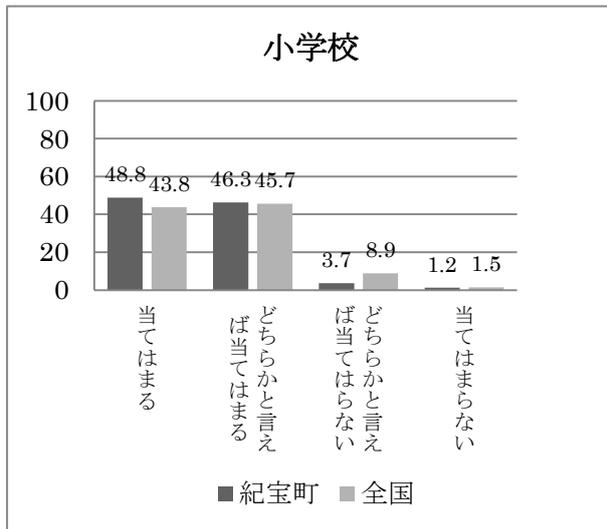
(1) 自分には、よいところがあると思いますか。



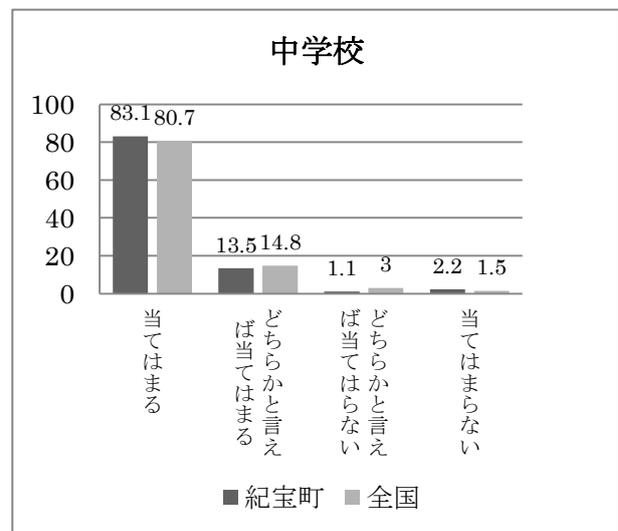
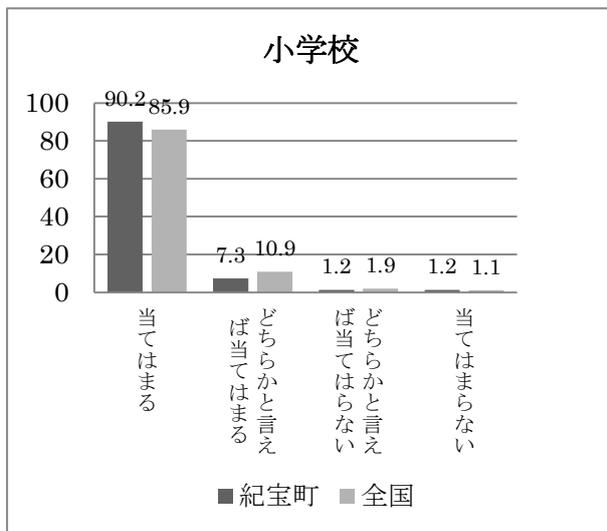
(2) 将来の夢や目標を持っていますか



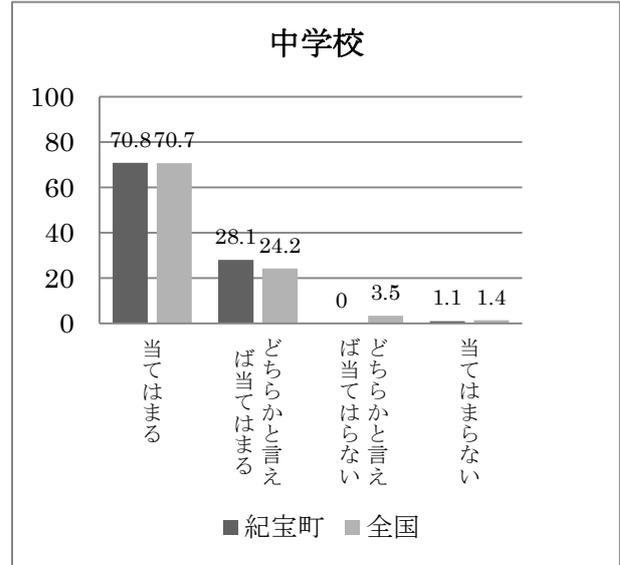
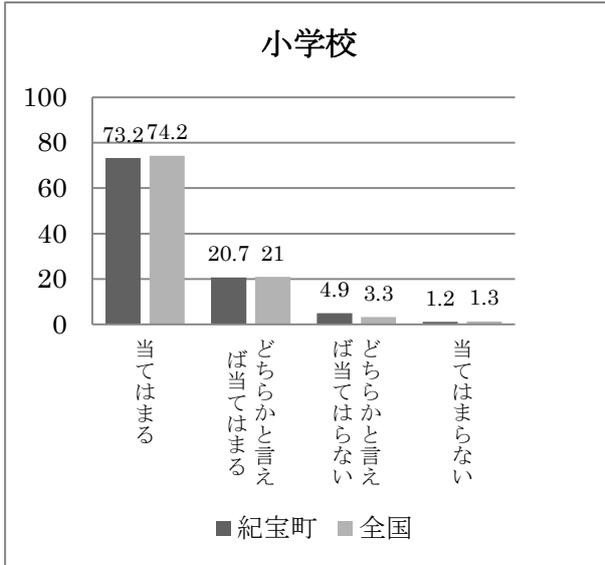
(3) 学校のきまり・規則を守っていますか。



(4) いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



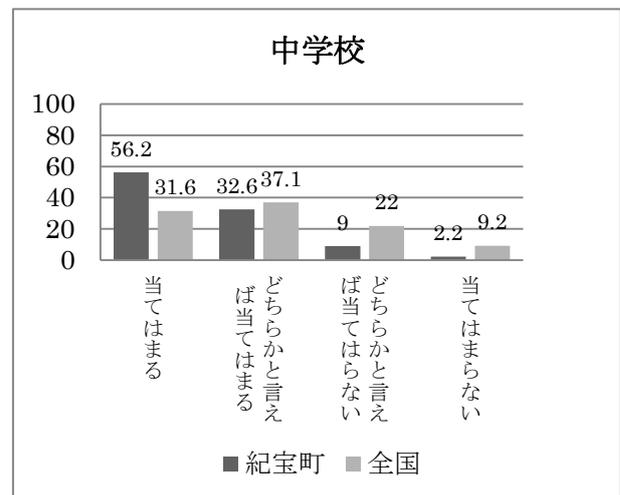
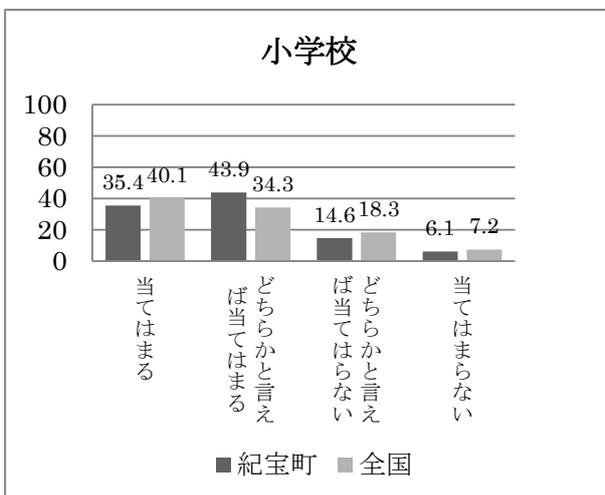
(5) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。



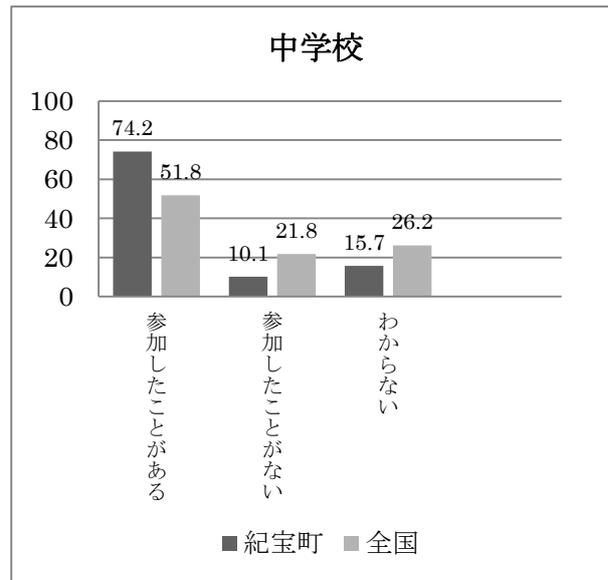
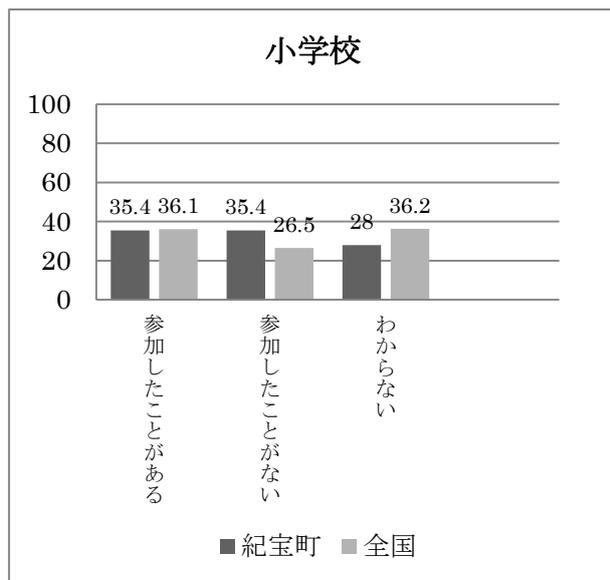
④ 地域との関わり、社会への関心

- ◎「授業や課外活動で地域の事を調べたり、地域の人と関わったりする機会があった」に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中ともに全国を上回り、中学校においては、20ポイント上回っている。
- ◎「地域社会などでボランティア活動に参加したことがある」「地域の大人に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりする」に対しても、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、小中ともに全国を上回っている。
- ◎ これらの質問に対して、肯定的な回答をした児童生徒の割合は、いずれも小学校より中学校が高い傾向を示しており、小学校から中学校にかけて、地域の方との関わりを持つ機会が増えていることが伺える。
- ◎ 社会への関心に関わって、新聞を読んでいる児童生徒はたいへん少ない。とくに、中学生に至っては、ほぼ毎日読む生徒は0人(0%)である。一方、テレビやインターネットでニュースを見ている児童生徒は、全国よりも多い。

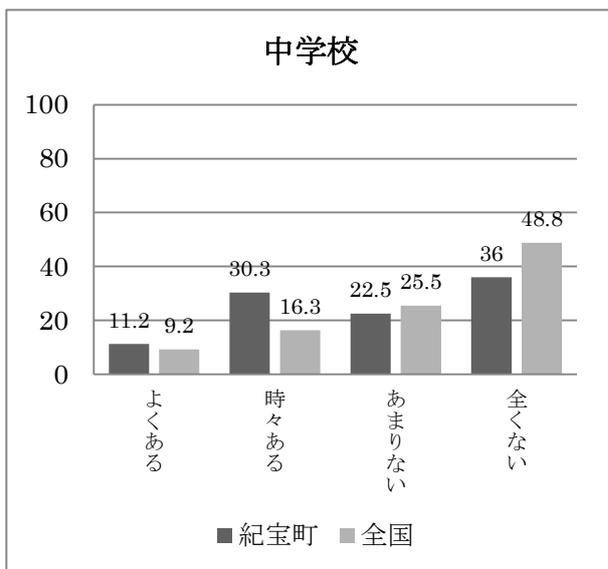
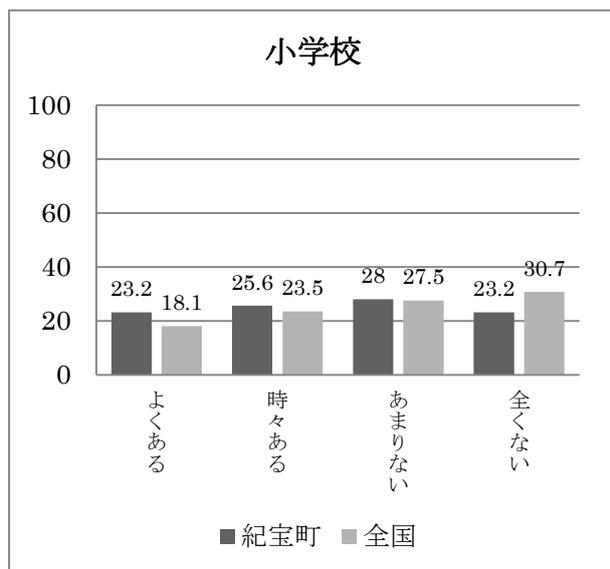
(1) 5年生(1・2年生)までに受けた授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思いますか。



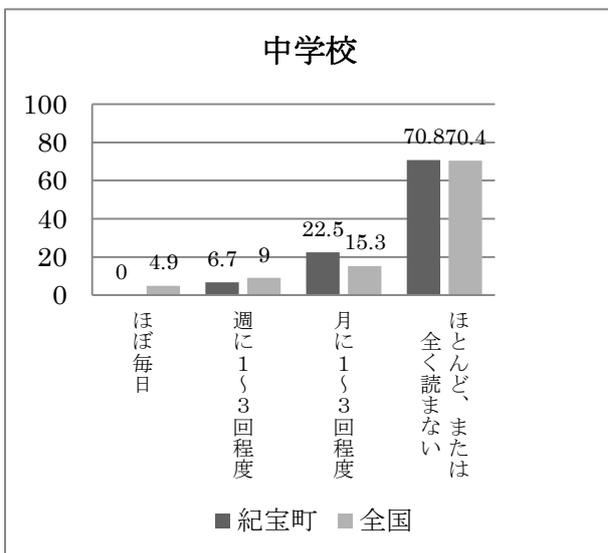
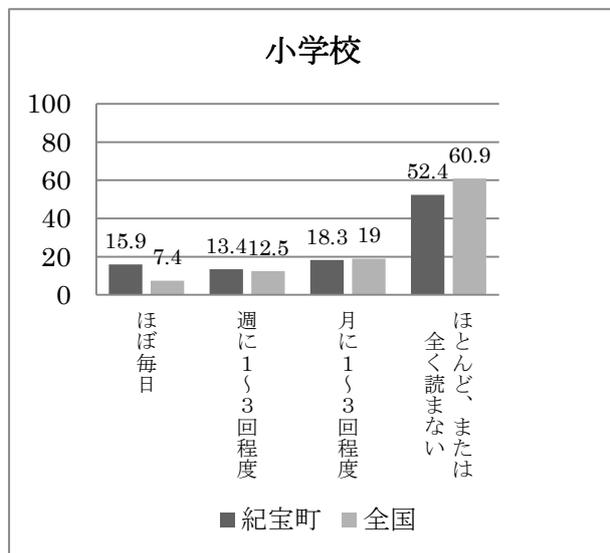
(2) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。



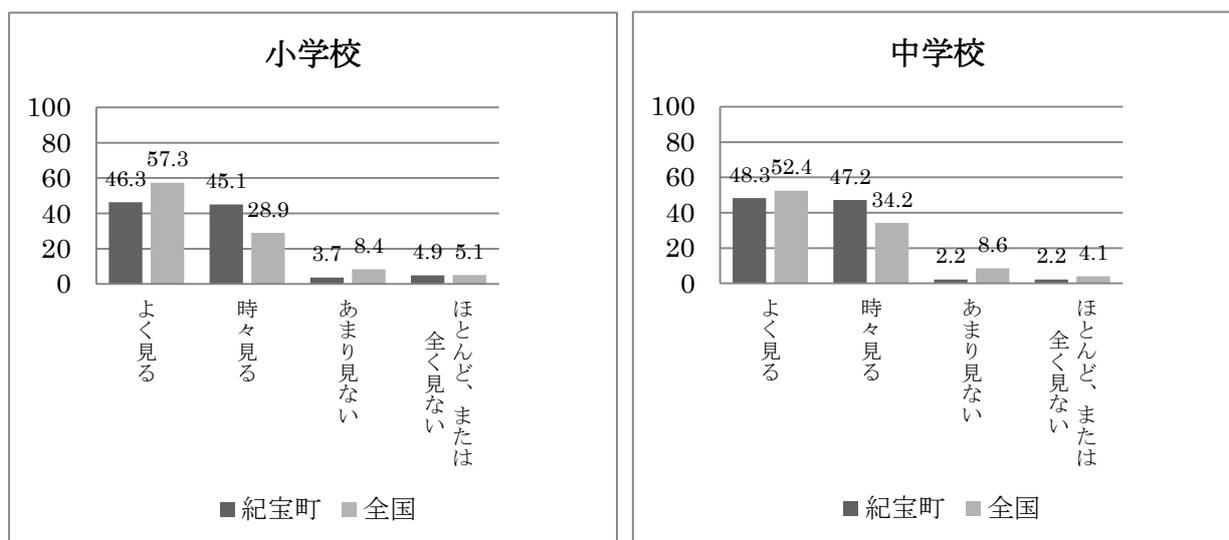
(3) 地域の大人（学校や塾・習い事の先生を除く）に勉強やスポーツを教えてもらったり、一緒に遊んだりすることがありますか。



(4) 新聞を読んでいますか。



(5) テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見ますか。



4. 学校質問紙の特徴的な傾向

「学校質問紙調査」とは、学校における指導方法に関する取組や、学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査です。ここでは「学校質問紙調査」のうち、特徴的な傾向を示している項目（質問）をいくつか取り上げ、それらについて分析（コメント）します。

全国平均を上回った項目（質問） = 紀宝町の小中学校の強み

《地域との関わり》

- ・「教科等の指導に当たって、地域や社会で起こっている問題や出来事を学習の題材として取り扱いましたか」
 - ・「地域の人材を外部講師として招聘した授業を行いましたか」
 - ・「授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会の設定を行いましたか」
 - ・「コミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援などの保護者や地域の人との協働による活動を行いましたか」
- ◎ 児童生徒質問紙調査でも明らかであったように、この学校質問紙調査でも、各学校において、子どもたちの成長に向けて地域との関わりを大切にしながら教育活動に取り組んでいる様子が伺える。
- ◎ 今年度からの全ての小中学校で「学校運営協議会」が設置されたこともあり、今後も「地域とともにある学校（＝コミュニティ・スクール）」として、この地域との関わりを大切に教育活動をさらに推進していけるよう、紀宝町学校運営協議会連絡協議会の活動を中心に各学校を支援していく必要がある。

《授業改善に向けた研修の推進》

- ・「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」
- ・「学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修を行っていますか」
- ・「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」
- ・「校長は、校内の授業をどの程度見て回っていますか」

- ◎ 「授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか」に対して、町内の全ての小中学校が肯定的な回答をしたように、児童生徒の規範意識が高いこととあいまって、実際に町内の全ての小中学校において、子どもたちは真面目に授業に取り組むことができている。
- ◎ さらに、週に何度も授業を参観し教師を指導するなど、校長がリーダーシップを発揮して授業改善に向けた取り組みをすすめており、研修テーマにしたがって授業研究に取り組むなど組織的かつ実践的な研修にも積極的に取り組んでいる。
- ◎ このような各小中学校における着実な授業改善に向けた取り組みが、今回の学力調査の結果にもつながっている。

全国平均を下回った項目（質問） = 紀宝町の小中学校の弱み

《家庭学習の定着に向けた取り組み》

- ・「家庭学習の課題の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか」
- ・「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか」
- ・「(算数・数学について) 児童生徒に与えた家庭学習の課題について、評価・指導しましたか」
- ・「理科の指導として、家庭学習の課題（宿題）を与えましたか」
- ◎ 児童生徒質問紙調査でも課題となっている家庭学習の定着については、これらの項目にもあるように、「課題の与え方」や「課題の内容」、「評価の方法」などについて検討を進めていく必要がある。
- ◎ さらに、学年や教科ごとに宿題や課題の与え方が違っている（教職員の共通理解が十分でない）状況についても、各学校において検討を進めていく必要がある。

5. 今後の取り組み、改善方策

紀宝町教育委員会では、今回の学力学習状況調査の結果からわかる子どもたちの「強み」「弱み」等の傾向をとらえ、具体的な施策に反映していきます。現在、各学校の主体的な取り組みを支援する主な事業として、次のような児童生徒の学力向上の取り組みを進めております。

◇ 紀宝町学力向上推進協議会の設置による、指導方法の工夫・改善、各学校全職員による学力向上の取り組みの継続的な検証サイクルの確立

※全国学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの活用

- ・各学校での自校採点と結果分析による、課題の共有と授業改善
(三重県教育委員会紀州教育支援事務所との連携)
- ・過去問題や県教委作成ワークシートの授業・家庭学習での活用

※学力向上に向けた各学校への支援

- ・授業において、効果的な「めあて」の提示と「振り返り」活動の工夫・改善
- ・新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた確かな学力の育成
- ・授業改善の取り組みを通じた、学習の基盤としての言語活動の充実

※効果的な「習熟度別少人数指導」の研究と実践（とくに算数・数学）

- ◇ 紀宝町学力向上推進協議会による町内公開授業研究会の開催
- ◇ 教員の授業力向上と指導方法の改善を支援するため、各学校の校内研修への指導主事・アドバイザーの派遣や県教委紀州教育支援事務所の支援も受けた授業研究の推進
- ◇ 教員の授業力向上と指導方法の改善を支援するため、石川県中能登町との視察交流（*）や、各学校の先進校視察
（*）… H29年度：外国語活動、H30年度：習熟度別少人数授業
- ◇ サマースクール・ウィンタースクールおよび放課後サポートスクール事業による、自主学習の習慣化の定着
- ◇ 教員の授業力の向上と指導方法の改善を図るための紀宝町研究指定校事業
（毎年2校を指定）
- ◇ 鶴殿図書館との連携による幼児期からの読書活動推進の取り組みや、学校における読書活動推進の支援
- ◇ 県教育委員会「『わかる授業』促進事業」に係る実践推進校の指定
※複数の教員による少人数指導【習熟度別少人数授業やチームティーチング】の推進（平成30年度は町内小中学校3校が指定を受ける）
- ◇ 「みえの学力向上県民運動」に係る生活習慣等チェックシートを活用した集中取り組み
（各小中学校において年3回実施）
- ◇ 土曜授業の活用

今後、県教育委員会と連携しながら、これらの事業を充実・発展させるとともに、見直しも図りながら、児童生徒の学力の向上に繋げるための支援に取り組んでまいります。